

羅針盤			方策			達成状況のまとめ及び次年度の課題			学校関係者評価		
評価対象	評価項目	具体的数値項目		点検・評価	達成度						
				自己評価	外部アンケート等	総合					
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1)体験的学習による授業に生徒の80%以上が満足している。 (2)自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・「課題研究」や学校設定科目的「起業実践」を通じ、問題解決型学習、作品制作、商品開発、プレゼン、地域や大学との連携活動など、実社会で役立つと考えられる能力を積極的に育成する。 ・学校行事、部活動など特別活動の充実と向上を図り、生徒が集団の一員として主体的に学校生活に参画できるように工夫する。 ・日頃より、学校への帰属意識を高め、生徒主体の活動になるよう支援する。	A	A	A	・「課題研究」や「起業実践」については、多様化した生徒の希望に応じ、来年度も多くの講座を設定し探究的な活動となるよう推進した。 ・学校により意欲的に違うことができるよう、生徒の意見を反映させながら学校運営をしていきたい。 ・生徒の主体性を高め、学校行事に積極的に参加し帰属意識を高める活動を推進できた。		・生徒の多様なニーズに応じた取り組みを進めてほしい。		
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(3)生徒の実態を踏まえた学習指導に、生徒の80%以上が満足している。 (4)本校の資格取得指導の実施に、生徒の80%以上が満足している。	・2年情報コースのソフトウェア活用で少人数授業及び習熟度別授業を実施する。また、2年会計コースの会計、原価計算においてチームディーラーミングを実施する。 ・ICT機器の活用や協働的な学習を取り入れるなど、各教科で授業形態の工夫をはかり、双方向の活気ある授業を展開する。 ・日頃から、資格取得が進路希望実現や進路選択の幅を広げるものであることを生徒に理解させる。 ・生徒の資格取得実現のために、学校をあげて支援する体制を整える。簿記検定週間・英語検定週間を設定し、特別時間割で実施する。また土曜日・長期休業・放課後を活用して補習を行う。	A	/	A	・コース別の選択科目の充実を図り、多様な生徒のニーズに応える授業を提供した。 ・生徒の選択ミスが起こらないように選択科目の説明会などの充実を図っていきたい。				
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(5)決められた宿題や提出物を毎回提出できている生徒が80%以上である。 (6)学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が、80%以上である。	・各教科で宿題・課題等を工夫し、家庭学習や朝学習の習慣の確立につとめる。また、宿題や課題を授業で有効活用し、知識の定着を図り、発展的な学習にも繋げる。 ・定期試験前の勉強時間の確保と、成績不振者を対象とした勉強会を実施する。 ・各科目ごとに具体的な目標を設定し、その達成に向け取り組ませる。生徒一人一人に定期的（学期毎）に目標に向けての進歩度を評価させ、達成度・満足度を確認する。	A	/	A	・資格取得においては生徒自身にとってどのようなメリットがあるかを説明し、生徒の自発的な行動を促すように努めた。結果、全商検定のみならず、実用英語技能検定などに積極的に挑戦する生徒も増加した。				
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(7)生徒会活動が充実していると評価している生徒が、80%以上である。 (8)部活動が充実していると評価している生徒が、80%以上である。 (9)教育相談が利用しやすいと感じている生徒が、60%以上である。 (10)登校時指導を毎月、組織的に行っている。 (11)交通事故の発生件数が前年度比の80%以下である。	・生徒会役員が生徒会活動の主体となるよう、企画立案、行事の実施に積極的に関わらせる。 ・大きな生徒会行事に関しては、実行委員を中心に行事の運営にあたらせるなど、全生徒に介在する体制を作る。 ・各部がそれぞれの目標を達成できるように、月ごとに活動計画を立て、また生徒会、学校と各部顧問とが連携し、施設面などの環境整備を行う。 ・ホームページや教育相談などを通して、月2回のスクールカウンセラーよりの来校日時を全生徒に通知し、誰もが気軽に相談できる体制を構築する。 ・年度当初作成した、全職員を5班に分けたローテーションにより、週1回の登校時指導を実施する。 ・年度当初、学級担任を中心として、自転車の安全走行のための安全点検を実施する。 ・通学時、複数回の街頭交通指導を実施する。 ・普段から個々の生徒の様子を観察することにより未然防止を図る。 ・学期ごとのアンケート調査により、早期の実態把握を行う。 ・交通事故に巻き込まれないため、ゆとりをもって登校するよう、生徒に呼びかける。またPTA総会や学年保護者会で家庭の協力を呼びかける。 ・学年回と連携し、月別欠席調査を実施する。 ・教育相談係やSCによる早期教育相談を実施する。 ・長期欠席者に対し週1回以上の家庭連絡を行う。 ・家庭と連絡を密にし、情報の共有を図る。	A	/	A	・生徒発信で校則等の改正や行事の運営など教員が裏方に回り、生徒の自発的な取組を促した。	・生徒が自発的な取り組みで校則改正などを進めていくことは今後につながる活動になるので非常に取り組んでいます。			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	(12)いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。		A	/	A	・部活動改革に対応しながら、日々の練習内容や部活理念を明確にする。また女子の部活動のさらなる振興を図る。 ・今後は学校全体で部活動の振興を図り、より生徒が主体的に取り組むことができる環境づくりに努めていく。	・学校の活性化においてはスポーツという要素も大切である。今と同じく今後も継続してもらいたい。			
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(13)1日平均遅刻者数が、5人以下である。 (14)中途転退学者が、在籍生徒数の0.5%以下である。		A	/	A	・生活アンケートの定期的な実施、不安を抱えている生徒に対してのケアやサポートなど教育相談と学年、担任が連携して取り組んだ。				
	7 計画的な指導を行っていますか。	(15)学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が、80%以上である。 (16)進路関係の行事が役立っていると評価する生徒が、80%以上である。		A	/	A	・月1回の登校時指導に加え、下校時指導、昼休みの校内巡回を継続した。 ・自転車ヘルメット着用の推奨や定期的な巡回など交通安全に関する啓発活動を実施した。ヘルメット着用も増加傾向にあるので今後も継続していきたい。				
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17)生徒の将来の志望について理解している保護者が、80%以上である。 (18)学校の進路指導について理解している保護者が、80%以上である。		A	/	A	・いじめ対策委員会を中心とした職員の観察により、未然防止に努めた。 ・学期毎のいじめアンケート調査による実態把握を行い、早期解消に務めた。 ・いじめ発生時には全職員の共通理解のもと、いじめの解消を図った。 ・本人の自己都合による遅刻、欠席が増加傾向にあった。学校への帰属意識を高め、生徒が主体的に学校生活を送ることができる環境づくりを担任・学年・生徒指導部が一体となって取り組んでいきたい。				
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(19)PTA総会、学年保護者会等に積極的に参加している保護者が、70%以上である。 (20)学校の様子がよく分かると答えている保護者が70%以上である。		A	/	A	・「今すぐ面接試験に行ける服装態度」を常に心がけさせ、校訓「至誠一貫」の実践を一人ひとりが考え具現化できるよう、生徒の育成を図った。 ・HRに担任が日々の生徒観察を徹底し、細かい変化にも迅速に対応できる体制づくりを構築していく。	(進路報告会を参考) 主体的な取り組みをしていたと感じている。生徒自身がよく考え行動した成果を感じることができた。			
	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21)ICTを活用した指導に、生徒の80%以上が満足している。		A	/	A	・商業高校特有の進路選択について学年で共有し、生徒に発信できるような体制を構築した。 ・親子で進路のことについて話し合いが持てるよう進路希望調査を年に複数回実施した。また、最新の進路情報を提供することにより、より多くの保護者が関心を持てるよう取り組んだ。 ・今後も高校3年間の進路ガイダンスや進路行事が上級学校を卒業してからも役立つような内容の進路行事とする。				
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(22)ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。		B	/	B	・ホームページでの積極的な発信を行った。 ・充実したPTAの活動や保護者会の実施に向け、より参加しやすい体制を構築していきたい。 ・学校見学会の内容を精選し、より生徒のニーズにあった企画を立案していく。	・家庭での生徒が情報を伝えることは、難しい面もあると思う。しかし、発信をしていくことはとても大切である。			
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	(21)ICTを活用した指導に、生徒の80%以上が満足している。		A	A	A	・一人一台端末を活用した授業を展開し、協同学習の充実をはかる。 ・進路指導において一人一台端末を活用し、データの共有ならびに生徒・保護者との連絡、情報共有の充実をはかる。 ・職員の100%が一人一台端末利用方法をマスターし、授業やクラスの担当者間で温度差が生まれないようにする。 ・職員打ち合わせにグループウェアを利用し、スムーズかつ連絡漏れの防止に努める。 ・資料や配布物のデータ化に努め、ペーパーレス化の運用体制をつくる。 ・担当分掌、学級以外にも業務の進捗状況の共有を図る。	・今後生成AIの活用などが進んでいくと考えられる。使い方を含め、生徒・職員が効果的に活用できる体制を作ってほしい。			
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(22)ICTを活用したアンケートに生徒・保護者の80%以上が満足している。		A	A	A	・ICTリテラシーの向上に向け日々の研修や、職員間の連携が密に行われた。今後もミスのないような運営をしていきたい。 ・ICTとSNSを活用した運用を充実させ、会議資料の情報共有とペーパーレス化の推進に努めた。				